シーボルトが持ち帰った「大坂 絵入折手本」小攷

高　杉　志　緒

“Osaka Eiri Woridehon”—A Publication of Calligraphy Samples with Wood Block Paintings—Brought from Japan by Philipp Franz von Siebold

by
Shio Takasugi

要旨

本稿は、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトが、第一次日本滞在時（1823年～1829年）に蒐集し、持ち帰った和古書の一例に関する調査報告である。シーボルトは、自分が蒐集した日本書籍を中心に1845年、約600書目が掲載された目録“*Catalogus librorum et manuscriptorum Japonicorum a Ph. Fr. de Siebold collectorum*”（邦訳題『シーボルト蒐集日本書籍及び手稿目録』）を自ら編集・出版しているが、蒐集資料を全て網羅している訳ではない。その一方で、シーボルトが蒐集した和古書資料の多くはオランダ国のライデン市に現存している。筆者は、シーボルトによる目録に掲載されず、オランダ国内に現存する19世紀日本書籍資料を網羅したカーレンによる目録“*Catalogue of Pre-Meiji Japanese books and maps in public collections in The Netherlands*”（邦題『オランダ国内所蔵明治以前　日本関係コレクション目録』1996年刊）においても「NO TITLE」（題名なし）と記されるライデン国立民族学博物館所蔵の一資料（所蔵館資料番号1-4477）に対して調査の機会を得た。調査の結果、対象資料は「朝比奈島めぐり」を題材とした多色摺の「絵入折手本」（未使用の習字用折手本）であることや、資料内に「エイリヲリデホン　ヲーサカ」と墨書されていることから大坂で入手した可能性が高いことが分かった。「絵入折手本」は往時の呼称であり、上方独特の資料と考えられるが、現段階で研究は殆ど進んでいない。この資料は、シーボルトの興味の広さを示すだけではなく、入手時期・場所が分かる上方独特の好個の資料例と分析できる。

キーワード：シーボルト、文政（1818年～1830年）、絵本、朝比奈島めぐり、寺子屋、手習い、手本紙

Summary:

This is a Research Paper on an old Japanese publication Philipp Franz Balthasar von Siebold collected during his first stay in Japan (1823-1829), which he later returned home with. In 1845, Siebold personally edited and published "*Catalogus librorum et manuscriptorum Japonicorum a Ph. Fr. de Siebold collectorum*" ("*The Ph. Fr. de Siebold Collection Catalog of Japanese Publications and Manuscripts*") where he listed about 600 titles centered mostly on Japanese publications that he collected. However not all of his collections are included in the above mentioned catalog publication.

Much of the old Japanese publication material Siebold collected still exists in the city of Leiden in the Netherlands. I had the opportunity to conduct research on one piece of material owned by the National Museum of Ethnology in Leiden (museum archive material reference number 1-4477) which Siebold, himself, did not list in his published catalog and which H. Kerlen only refers to as "NO TITLE" in his "*Catalogue of Pre-Meiji Japanese books and maps in public collections in the Netherlands*" (1996), a catalog of 19th Century Japanese publication material still in existence in the Holland. My research concluded that the subject material is a publication of calligraphy samples with wood block paintings (unused samples for calligraphy use) addressing the theme of "*Asahina-shimameguri*" (the warrior Asahina visiting various islands). Furthermore, because the material contains the ink written calligraphy inscription "*Eiri Woridehon Osaka*" ("Osaka: Samples of Calligraphy and Wood Block Paintings"), there is a high probability that it was collected in Osaka. Although such material were referred to as "*Eiri Woridehon*" ("Samples of Calligraphy and wood block paintings") and despite the high probability that the subject material is unique to Kamigata-area (Vicinty of Kyoto and Osaka), there is no research being conducted on the subject matter at this present time.

The existence of the subject material not only illustrates the diversity in Siebold's interests. It also can be said to be an excellent piece of material unique to Kamigata-area (Vicinty of Kyoto and Osaka) where time and place of acquisition can be determined.

Keywords: Siebold, Bunsei Period (1818-1830), picture book, *Asahina-shimameguri* (the Japanese warrior Asanina visiting islands), small private school in the Edo Period, writing calligraphy with a brush, book of calligraphy samples

(English translated by David Kalischer)

１．はじめに　―近年の研究状況と本稿の目的―

フィリップ・フランツ・バルタザール・フォン・シーボルト（Philipp Franz Balthasar von Siebold, 1796年生～1866年没）は、医師・博物学者としてだけでなく、江戸時代に２度来日し、日本資料の蒐集・海外紹介を行った「東西文化の架橋者」として知られている。

シーボルトは、初回来日時（1823年～1829年）の蒐集和古書類に対して自らが編集し、ラテン語による594書目の解説を掲載した書籍目録を1845年に出版している(1)。また、再来日時の蒐集目録については、シーボルトの子孫であるドイツのブランデンシュタイン＝ツェペリン家（Brandenstein-Zeppelin）に「書物および木版画」に関する自筆目録が現存し、それが最晩年の著書“*Uerberschicht und Bemerkungen zu von Siebold's Japanischem Museum*”（邦訳題『シーボルトの日本博物館に関する概要と覚書』1846年～1866年頃刊）にも反映されているという(2)。

但し、目録類に掲載された書籍資料以外にもシーボルトは和古書・写本類を蒐集しており、それらを参考にシーボルトは“*Nippon*”（『日本』）等の著作を行ったことが、昭和戦前期から指摘されてきた(3)。

近年の日本における研究状況を概観すると、人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究事業」の一環として、平成22年度（2010）から６年計画で「シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代（19世紀）に日本で収集された資料についての基本的調査研究」プロジェクトが展開され、いわゆる和古書資料に関しては、国文学研究資料館によって「オランダ国ライデン伝来のブロンホフ、フィッセル、シーボルト蒐集日本書籍の調査研究」が推進されている(4)。

また、数多くのシーボルト蒐集資料が現存しているオランダでは、19世紀蒐集日本書籍資料に対する目録として以下の２書が現在、活用されている。それは、セルリエ（Lindor Serrurier、1826年生～1901年没）によって1263書目を掲載し1896年に刊行されたフランス語の目録と(5)、カーレン（H. Kerlen）によって1962書目を所収し1996年に刊行された英語の目録である(6)。特に後者のカーレンによる目録：邦文題『オランダ国内所蔵明治以前日本関係コレクション目録』は、地図類も含む掲載資料数の多さだけでなく、著者・出版年・版元・法量等の書誌的情報も記されるため、オランダ国内に現存する明治以前日本資料調査の基礎文献とされている。従って、オランダ国内に現存するシーボルト蒐集日本書籍資料を研究するためには、シーボルト本人による目録類とセルリエやカーレンによる目録を対比させながら調査を行うことが基本的な作業といえる(7)。

その一方で、先述したようにシーボルト、セルリエによる目録に記載がないシーボルト蒐集

資料が存在するだけでなく、カーレンによる目録においても「NO TITLE」（題名なし）と記された日本書籍資料が48書目含まれている。

本稿では、シーボルト蒐集資料と考えられるもの[8]、シーボルト本人及びセルリエによる目録には記載がなく、カーレンの目録でも「NO TAITLE」とされる江戸期に版行された絵入本の一例に着目し、その実体を明らかにすることを目的とする。以下、資料調査報告（2章)、分析・考察（3章)、今後の課題（4章）の順で述べる。

2．資料調査報告

2・1　調査資料について

本章では、カーレン『オランダ国内所蔵明治以前　日本関係コレクション目録』(1996年、506頁）に所収される以下の資料について調査報告を行う。調査資料に関する記述を原文のまま引用すると次の通りである。

1206. ［NO TITLE］　　RMvV　1-4477

Date of publication：before c.1825

Collation：1 vol.；orihon；71×324；17 sheets, not numb. Various illustrations. Not dated (before c.1825), not signed.

No title page. No Hashira-title. No colophon.

KSM：（kaiga 絵画）-

この記載を前掲『オランダ国内所蔵明治以前　日本関係コレクション目録』の凡例に基づいて和訳すると以下の通りである。

「1206. ［題名なし］、ライデン国立民族学博物館　所蔵館資料番号　1-4477、発行年：1825年以前か。書誌事項：1冊；折本；横71㎜×縦324㎜；17折、丁付なし。複数の挿絵あり。刊年なし（1825年以前か)、落款なし。題名なし。柱刻題名なし。奥付なし。『国書総目録』岩波書店：（絵画）記載なし。」

上記のカーレンによる書誌情報によって、本資料の装丁が折本であり、複数の挿絵を有する「絵入本」（絵本）であることは判明する。但し、「題名なし」「柱刻題名なし」と記述されるため〈原本の題箋欠損などによる題名未詳本〉〈元来無題の本〉いずれであるのか、また挿絵に対する情報、即ち画題・挿絵数なども記載がないため分からない状況であった。そこで筆者は、この本の題名（資料名）・挿絵（画題・挿絵数等）を調査すべく平成25年（2013）9月、資料所蔵館であるライデン国立民族学博物館で調査を行った。その結果、追加情報が得られたので書誌（2・2)、挿絵（2・3）の順で報告を行う。

２・２　追加書誌情報について

追加の書誌情報は以下の通り。表紙（濃紺色無紋無地、題箋・表題なし、**写真Ⅰ**）。表紙左上端貼紙２枚「V.／C.／88」（枠と英字は印刷、数字はペン書）、「Ⅰ／№4477」（枠は印刷、数字･記号はスタンプ）。見返しは白紙。表見返し上部「1 groepⅦ／№4477」（ペン書）。１折目上部と末折上部に各１顆「VERZAMELING VON SIEBOLD.」（青色円印、**写真Ⅱ**）。裏見返し「三十七／ヱイリヲリデホン／ヲーサカ」（墨書、**写真Ⅲ**）。多色摺（文字なし）、全６図。

Web 上では非公開ですので、冊子をご覧ください

写真Ⅰ「絵入折手本」表紙　　**写真Ⅱ 表見返し印**　　**写真Ⅲ 墨書「三十七 ヱイリヲリデホン ヲーサカ」**

（Rijksmuseum Volkenkunde：ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

２・３　挿絵について

挿絵の画題は「朝比奈島めぐり」と考えられる。１紙につき１図ずつ計６図、鶴の丸の紋入りの衣装をまとった朝比奈の姿が各図にみえるためである（**写真Ⅳ～Ⅸ**）[9]。上方絵本には合羽摺も多く使用されるが、６図とも全て木版多色摺であった。各図の詳細については別表に記した（**表１**）。なお、「朝比奈島めぐり」については後述する（**３・３**）。

表１　シーボルト蒐集「絵入折手本」挿絵一覧表
（ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

図掲載順番	画題	色摺の使用色	紙幅	写真番号
第１	猩々国桜下酒宴	緑（主版）･赤･桃･紫･灰	36.0㎝	写真Ⅳ
第２	小人国での力比べ	緑（主版）･赤･桃	42.5㎝	写真Ⅴ
第３	手長国での力比べ	緑（主版）･赤	42.5㎝	写真Ⅵ
第４	美人国(女護島)での優遊	緑（主版）･赤	42.5㎝	写真Ⅶ
第５	足長国での力比べ	緑（主版）･赤	42.6㎝	写真Ⅷ
第６	鬼が島での豆撒き	緑（主版）･赤	32.0㎝	写真Ⅸ

Web 上では非公開ですので、冊子をご覧ください

写真Ⅳ　第１図　猩々国桜下酒宴
（Rijksmuseum Volkenkunde：ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

Web 上では非公開ですので、冊子をご覧ください

写真Ⅴ　第２図 小人国での力比べ
（Rijksmuseum Volkenkunde：ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

Web 上では非公開ですので、冊子をご覧ください

写真Ⅵ　第 3 図　手長国での力比べ
（Rijksmuseum Volkenkunde：ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

Web 上では非公開ですので、冊子をご覧ください

写真Ⅶ　第 4 図　美人国（女護島）での優遊
（Rijksmuseum Volkenkunde：ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

Web 上では非公開ですので、冊子をご覧ください

写真Ⅷ　第５図　足長国での力比べ
（Rijksmuseum Volkenkunde：ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

Web 上では非公開ですので、冊子をご覧ください

写真Ⅸ　第６図　鬼が島での豆撒き
（Rijksmuseum Volkenkunde：ライデン国立民族学博物館所蔵，所蔵館資料番号 1-4477）

３．分析・考察

今回の調査によってライデン国立民族学博物館が所蔵するシーボルト蒐集資料（所蔵館資料番号 1-4477）について以下３点、即ち、資料蒐集期・蒐集場所（３・１）、資料名（３・２）、画題（３・３）が明確となったので順に述べる。

３・１　資料蒐集期・蒐集場所

シーボルトが本資料を蒐集した時期については、２顆の「VERZAMELING VON SIEBOLD.」つまり「シーボルト日本博物館」と記された印により、シーボルトが初回来日時（1823 年～1830 年）に本資料を蒐集したことが分かる。奥田素子氏の報告によると、この印は 1859 年、民族学博物館長のレーマン（Conrad Leeman、1809 年生～1893 年没）がシーボルト日本博物館の蒐集品管理を引き継いだ時に押されたという(10)。

蒐集場所については、資料内墨書「ヲーサカ」によって「大坂」と窺える。この墨書は、シーボルトは日本語に堪能ではなかったことから、往時の日本人によって記されたと考えられる。

シーボルトと大坂についていえば、シーボルトは初回来日時、オランダ商館長と共に江戸参府を行った折に大坂に滞在したことが知られる。シーボルトの自著である『江戸参府紀行』をひもとくと、江戸からの帰路で大坂に滞在した文政９年（1826）６月９日（旧暦５月４日）「私の研究に必要な品々の購入や注文に一日を過ごす」とあるため(11)、本資料も大坂市中で購入した可能性があることが考えられる。入手方法については後述する（３・２）。

３・２　資料名

資料名については、本資料に記された墨書の存在により、シーボルトは「エイリヲリデホン」即ち「絵入折手本」と把握していたと考えられる。この片仮名による和名記載は、シーボルト本人の意図によるものであろう。それは、他の収集品でも同様に片仮名による和名記載がみられるためである。シーボルトは、日本滞在時に動物標本の収集も行っていたが、それら標本類の特徴の一つに「和名の調査が行われていたこと」が指摘されている。山口隆男氏によると、シーボルトは「和名に異常とも思えるほどに関心を抱いて」おり、学名（ラテン語）を記載したラベルの他、片仮名で和名を記入した紙片が多くの標本に添えられていたという(12)。従って、シーボルトは本資料（絵入折手本）に題箋・表題の記載がなかったこともあり、和名（現地での呼称）を正確に記録しておくよう配慮したと考えられる。

墨書が記す「折手本」とは、江戸期、寺子屋の師匠に習字の手本を書いてもらう短冊形の折帖をさす。肥田晧三氏は、上方の「折手本」の変遷について、江戸前期に出版された井原西鶴

『好色一代男』（天和２年（1682）刊）巻一の「はづかしながら文言葉」に「手本紙」という名がみえるため江戸前期から「手本紙」が存在したこと、廬橘庵『進物便覧』（文化４年（1807）刊）に「寺入り」時の進物として「折手本」「絵入折手本」が記されているため文化期には既に「絵入」の「折手本」が存在していたこと、幕末期大坂で刊行された本の巻末広告（冨士屋政七）にも「折手本類」の項目中に「絵入」がみえることを指摘しておられる[13]。同時に肥田氏は、「絵入折手本」は元来、師匠に習字の手本を書いてもらうための折帖なので多色摺りの絵の上に文字が記された言わば使用後の現存資料も示しておられる（**写真Ｘ**）。

写真Ｘ　「鈴木いま」旧蔵（女子用）絵入折手本（肥田晧三氏所蔵）

更に肥田氏は、上方の「絵入折手本」の特徴について①（１冊につき大凡）絵は５図～８図で16～18折、②１図目は多色摺りで華麗だが２図目以降は２色摺が多い、③恐らく上方独特であること、④（都市風俗など男女共通の画題もあるが）画題によって男子用（武者絵）・女子用（女性風俗）の区別が明確であること、以上４点を挙げておられる[14]。

これら４点の特徴を本資料の調査結果と照らし合わせると（**２・３**）、①全６図17折、②１図目は（主版を含めて）５色だが２図目は３色・３図目以降は２色摺、③墨書により入手地は「ヲーサカ」（大坂）、④朝比奈（武者絵）が描かれた男子用、以上「絵入折手本」の特徴として挙げられた全てを備えていることが窺える。このように資料調査結果と肥田氏の指摘を勘案すると、今回ライデン国立民族学博物館で調査した本資料は、化政期に上方を中心に刊行された多色摺の絵を地模様にした未使用の「絵入折手本」であることが明確となった。

特に本資料は、蒐集期（成立年）と入手地がしぼられる点において注目されよう。江戸期に販売された刊本は、一般的に刊記・奥付を有し、作者・版元・刊行年が記載されるため成立年・発行地が判明することが多い。だが、「絵入折手本」は、いわゆる書籍とは性質が異なる習字用の折手本（手本紙）であるため作者名・発行地・刊年などの記載はない。従って、シーボルトが第一次日本滞在後に持ち帰った本資料は、蒐集時期（シーボルトが滞在した文政６年～12年：1823年～1829年）・入手地（大坂）がしぼられる好個の作例といえよう。

同時に資料を蒐集したシーボルト側からいえば、和名に興味を持ち、自然科学分野の資料以外においても往時の呼称を正確に記載することに配慮したことをはじめ、民族学（日本の出版文化・子どもの風俗）にも関心を持っていた一面が窺える。入手方法については、大坂市井の人から譲ってもらったのではなく、絵草紙類を扱う本屋から購入したと考えられる。その理由は、先に述べたようにシーボルトは江戸参府の折、大坂で研究必要品の購入を行っていることに加え（**３・１**）、本資料の状態が良いためである。状態について付言すれば、本資料は「折手本」として使用された形跡、即ち本紙に（**写真**Ｘ）のような習字手本用の筆跡がなく、未使用の状態である。更に巻末の記載に留意すると「三十七／ヱイリヲリデホン／ヲーサカ」と墨書された内の「三十七」は、片仮名より若干墨色が濃く、違う人間が記した可能性もある。「三十七」という番号については後考を俟ちたいが、本資料がシーボルト江戸参府の途中つまり文政９年（1826）、大坂市中の店から購入した可能性を指摘したい。

３・３　画題「朝比奈島めぐり」について

先述したように、本資料の画題は、６図からなる「朝比奈島めぐり」と考えられる（**２・３**）。

周知の通り「朝比奈」は、和田義盛（1147年生～1213年没）の子、朝比奈義秀（生没年未詳）をモデルとしており、勇猛・滑稽味にあふれた人物として江戸期を通じて歌舞伎・浄瑠璃・絵本等に度々登場して親しまれてきた[15]。朝比奈を主題とした江戸期絵入本の一部を列記すると以下の通りである（**表２**）。

表２　朝比奈を主題とした江戸期刊本の一部

仮 No.	種別	作者・絵師等	題名（仮題）	成立年	調査資料所蔵先 ※は未調査資料
①	金平浄瑠璃	（出羽少拯藤原信勝）	あさいなしまわたり	寛文２（1662）	※東京大学図書館
②	黒本	作者未詳	朝比奈勇力鑑	延享２（1745）	※国立国会図書館
③	黄表紙	富川吟雪画	朝比奈島渡	安永５（1776）	国立国会図書館
④	上方絵本	作者未詳	（朝比奈島めぐり）	未詳	国立国会図書館
⑤	読本	（初編～６編） 曲亭馬琴著・歌川豊広画 （７編・８編） 松亭金水著・葛飾爲斎画	あさいなしまめぐりのき 朝夷巡島記	文化12（1815）- 文政10（1827） 安政２・５（1855） 安政５（1858）	国立国会図書館

以上は一例だが、歌舞伎等だけでなく往時の出版物における「朝比奈もの」の人気が窺えよう。付言すれば、本だけでなく、浮世絵・おもちゃ絵といった一枚摺の画題としても朝比奈は数多く登場している(16)。

なお、上記②～⑤に対して筆者は原本調査を試みたが、②は国立国会図書館での所在が現在不明のため調査できなかった。また、シーボルトが蒐集した「絵入折手本」と③～⑤の図様を比較した結果、画風の類似・構図の流用等の直接的な関係はみあたらなかった。参考のため④との比較例を一図だけ以下に挙げておく（**写真Ⅺ・Ⅻ**）。

写真Ⅺ 「女護嶌・小人嶌」（仮題）『朝比奈島めぐり』
（刊年未詳、『絵本集艸』11所収、国立国会図書館所蔵）

Web 上では非公開ですので、
冊子をご覧ください

写真Ⅻ 「美人国」（女護島）での優遊」（部分）
（ライデン国立民族学博物館所蔵 1-4477）

4．おわりに　―今後の課題―

本稿では、シーボルトが蒐集した和古書資料の内、従来は「無題」とされ全容が掴めなかった一資料（ライデン国立民族博物館所蔵、所蔵館資料番号 1-4477）に対する調査結果・分析を中心に報告した。調査・分析の結果、当該資料はシーボルトが第一次滞在時に「大坂」で入手した「絵入折手本」であり、画題は「朝比奈島めぐり」であることが分かった。また、本資料はシーボルトの広範な興味対象（和名・民族学資料に対する興味）を示すだけではなく、蒐集時期・場所が限定できる「絵入折手本」の好個な作例と位置付けることができた。換言すれば、本資料は、刊行年が明記されない「絵入折手本」の版行・流布状況を知る上で貴重な資料であることが分析できた。

今後の課題として以下 3 点を挙げたい。

１点目は「絵入折手本」に関する研究推進の必要性である。「絵入折手本」について、肥田晧三氏は「上方の子ども文化を語るとき、子ども絵本とおもちゃ絵と手本紙（絵入折手本）の三つは欠かせない」と評しておられることは注目すべきと考えられるが(17)、管見による先行

研究は肥田氏の言及以外で存在するのは、僅か中野三敏氏による記述・現存資料紹介のみであった[18]。これは、本来「折手本」が習字用手本として日常に使用される消耗品であることに因む現存数の少なさによるのやもしれぬが、今後より多くの現存資料調査に基づいた研究を行う必要があろう。シーボルトが初回来日時に蒐集した本資料の位置付けを行うためだけでなく、家庭生活史研究のためにも「絵入折手本」の研究推進が不可欠と考えらえる。

２点目は、「朝比奈島めぐり」を含めた「島渡り」画題に対する総合的な研究の必要性である。「島渡り」に対する総合的な画題研究の先行論文として、木村八重子氏の論考が挙げられるが[19]、本作品は「大坂」「子ども向け」という流布地区・対象者が絞られるため、画題受容を考える上でも貴重な作例と位置付けられよう。

３点目は、シーボルト・コレクションの総合的な研究推進の必要性である。本稿では、僅か１資料しか取り上げなかったが、シーボルトは本資料以外にも目録類には記されていない様々な資料を蒐集している。更に巨視的にみれば、蒐集資料は書籍・絵図類のみならず民族学資料（工芸品・衣類等）・標本資料（動植物標本等の自然科学資料）を含めた多岐に亘った分野から構成されている。従って、国文学研究資料館による書誌学的調査を含めた人間文化研究機構による「日本関連在外資料調査研究事業」を機に今後、総合的・学際的観点に立ったシーボルト・コレクションの研究が推進されることを期待したい。

謝辞

本稿の作成にあたり、資料調査・紙面掲載許可を御許可頂いたライデン国立民族学博物館（マティ・フォラー氏）、国立国会図書館、肥田晧三氏に対して厚く御礼申し上げます。同時に、ご教示頂きました肥田晧三氏、中野三敏氏、木村八重子氏、マティ・フォラー氏、邦子・フォラー氏、奥田倫子氏、和文題名・要旨を英訳頂いた David Kalischer 氏（福岡市総合図書館映像資料課勤務）に対し、記して深甚の謝意を表します。

本稿は、「絵入本ワークショップⅥ」（主催：絵入本学会、共催：同朋大学・実践女子大学文芸資料研究所、2014 年７月５日～６日、於：同朋大学）における発表「シーボルトが持ち帰った「大坂　絵入折手本」をめぐって」をもとに作成致しました。当日、御教示頂きました浅野秀剛氏、北川博子氏、佐藤至子氏、佐藤悟氏、日比谷孟俊氏に対して深く感謝申し上げます。

なお、本稿は公益財団法人　三菱財団「第 39 回　三菱財団人文科学助成事業研究：ライデンに現存するシーボルト収集和古書の書誌学的研究」の成果の一部です。

注

1）Philipp Franz Balthasar von Siebold：*Catalogus librorum et manuscriptorum Japonicorum a Ph. Fr. de Siebold collectorum, annexa enumeratione illorum, qui in Museo Regio Hagano servantur*, L.G.La.Lau, Leiden, 62pp, 1845

2）石山禎一：第二回日本旅行のコレクションと博物館,「シーボルトの日本研究」, 吉川弘文館, pp86-101, 1997

3）緒方富雄ほか：門人がシーボルトに提供したる蘭語論文の研究,「シーボルト研究」（日独文化協会), 岩波書店, 1938

4）（人間文化研究機構　国文学研究資料館：「シーボルトコレクション現存書目録と研究」, 勉誠出版, 675pp., 2014）　付記：発行日は抽稿提出後の 12 月 25 日である。同書所収「第一次滞在シーボルト日本書籍コレクション所蔵機関別現存書目録」（p. 165）における本資料の記載全文は以下の通り。「518〔絵半切〕E HANGIRE［Untitled］* 一帖。縦三二・三糎, 横七・一糎。紺色表紙。淡色摺り（三色)。一七折。絵は「朝比奈」か。文字なし。＊スタンプ「VERZAMELING VON SIEBOLD」。識語「三十七　エイリヲリデホン　ヲーサカ」。」

5）Lindor Serrurier：*Bibliothèque japonaise: catalogue raisonné des livres et des manuscripts japonais enrégistrés à la bibliothèque de l'université de Leyde*, E. J. Brill, Leiden, 298pp, 1896

6）H.Kerlen：*Catalogue of Pre-Meiji Japanese books and maps in public collections in The Netherlands*「オランダ国内所蔵明治以前　日本関係コレクション目録」, Hotei Publishing, Leiden, 918pp., 1996

7）（山口隆男：シーボルトの日本収集書籍コレクションの概略について,「シーボルト蒐集和古書目録」（中野三敏), 八木書店, pp.170-172, 2015　出版予定）

8）（山口隆男：シーボルトの日本収集書籍コレクションの概略について,「シーボルト蒐集和古書目録」（中野三敏), 八木書店, p171, 2015　出版予定）論文中で山口氏はシーボルト蒐集和古書資料の内、ライデン国立民族学博物館に移管された書籍類の所蔵館資料番号には、「１」に続いて番号が付されていることを指摘しておられる。

9）星瑞穂：朝比奈図像考―朝比奈と鶴をめぐって, 絵入り本研究, ２, pp.1-10, 2011

10）奥田倫子：日本語学者ヨハン・ヨーゼフ・ホフマン旧蔵日本書目録（試案), 14, 書物・出版と社会変容, p.161, 2013

11）シーボルト著・斎藤信訳：「江戸参府紀行」東洋文庫 87, 平凡社, p.240, 1967

12）山口隆男：シーボルトと日本の動物学, 鳴滝紀要, ６, pp.111-115, 1996

13）肥田晧三：上方の手本紙, 藝能懇話, 20, 大阪藝能懇話会, pp.143-144, 2009

14）肥田晧三：上方の手本紙, 藝能懇話, 20, 大阪藝能懇話会, p144, 2009

15）志田義秀：朝比奈の傳説及び文學,「日本の傳説と童話」, 大東出版社, pp.90-134, 1941

16）斉藤研一：「朝比奈島あそび」を読む, 文学, 10（５), 岩波書店, pp.206-220, 2009
肥田晧三：心斎橋の絵草紙屋, 新菜橋本撰, 10,「心斎橋研究」同人, pp.17-18, 2013

17）肥田晧三：上方の手本紙, 藝能懇話, 20, 大阪藝能懇話会, p145, 2009

18）中野三敏：折帖仕立て,「江戸の板本」, 岩波書店, pp.76-78, 1995

19）木村八重子：赤本「義経嶌めぐり」をめぐって, 國文學：解釈と教材の研究, 44（14), 學燈社, pp.116-125, 1999